



# 2023年3月期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員 森 拓也

2023年5月29日





# 目次

---

1. 2023年3月期 決算概要	P. 2
2. 2024年3月期 業績予想	P. 13
3. 中期経営計画2022の進捗	P. 16
Appendix ご参考	P. 25



# 1. 2023年3月期 決算概要



# 2023年3月期 トピックス

## 経済社会活動の正常化により国内景気が持ち直し、建設投資は前年度比微増

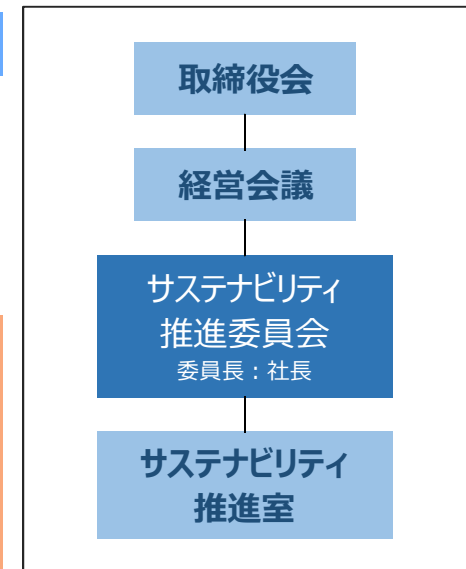
- 2022年度建設投資額は、前年度比0.1%増の66兆6,900億円と予測  
 出典：「建設経済モデルによる建設投資の見通し」  
 (一財) 建設経済研究所4月発行
- 政府建設投資額は、前年度比0.1%増の23兆4,100億円と予測
- 民間建設投資額のうち住宅投資額は、前年比0.2%増の16兆1,500億円、非住宅投資額は、前年度比7.2%増の19兆100億円と予測

## 各利益項目は期初計画より大幅に増加

- 売上高は、土木事業は新設鉄道工事の完成、設計変更獲得等により期初計画から増加。建築事業は繰越高及び当期受注案件ともに売上高の減少により、全体では期初計画より微減
  - 期初計画比△1.5%、前年度比△0.3%の微減
- 売上総利益率は、新設鉄道工事の完成による利益増加、設計変更獲得や採算性の向上等により全体で0.9ポイントの改善
  - 期初計画：13.3%→実績：14.2%
  - 土木事業の利益率は期初計画よりも2.1ポイント上昇し17.8%、建築事業の利益率は7.5%と1.4ポイント低下
- 各利益項目は、期初計画比で大きく改善し、当期純利益が37億90百万円となる
  - 期初計画比増加率：売上総利益+5.3%、営業利益+15.5%、経常利益+17.3%、当期純利益+18.4%

## サステナビリティ推進委員会の設置

- 2022年4月に「サステナビリティ推進室」を設置
  - 社会・環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る課題を理解し、事業活動を通じてそれらの課題を解決するために、2023年4月よりサステナビリティ推進委員会を設置。新たなサステナビリティ推進体制がスタート
  - カーボンニュートラルをはじめとする環境課題や人的資本に関する取り組みなどの施策検討を充実させていく体制を整備



サステナビリティ推進体制図

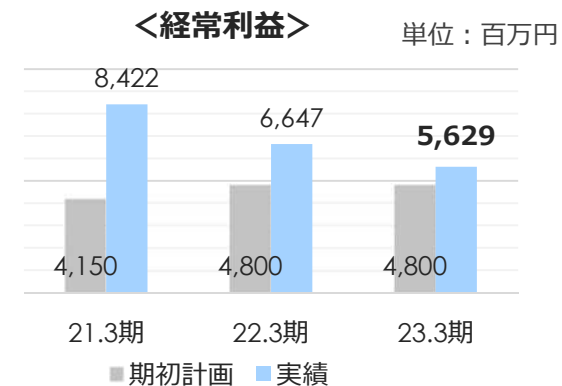
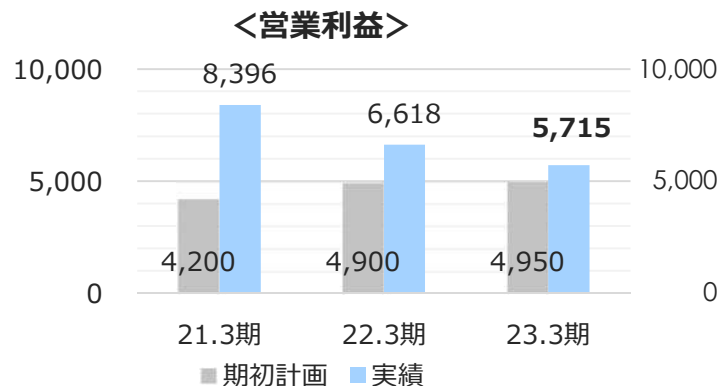
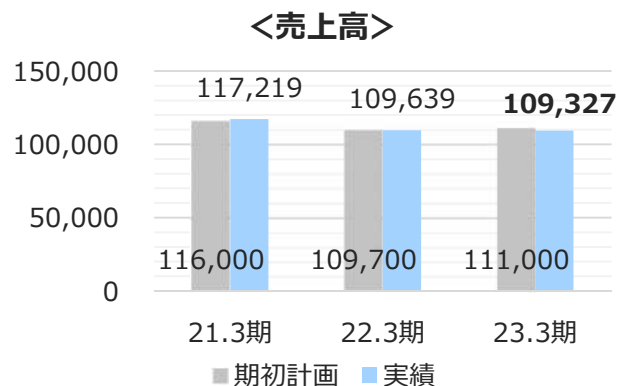
## サステナビリティ基本方針

- ◆ 地球環境に配慮した安全・安心で高品質な社会資本を提供する。
- ◆ 安全最優先と人権尊重を企業活動の基盤とし、多様な人材が活躍し、活気あふれる職場環境を構築する。
- ◆ マルチステークホルダーとの積極的なコミュニケーションを通し相互理解を深め信頼を獲得し続ける。
- ◆ リスクマネジメントを徹底し、様々な重要リスクへの対応を事業機会ととらえ、新たな価値を創出する。
- ◆ 公正な企業活動を推進するとともに、コンプライアンスを徹底する。

# 業績サマリー

## 連結業績サマリー

(単位：百万円、%)	21.3期		22.3期		23.3期		コメント	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比 期初計画比		
売上高	117,219	10.9	109,639	△6.5	109,327	△0.3	△1.5	土木工事の売上高増を建築工事の売上高減が上回り前期比減収
売上総利益	17,632	22.6	15,766	△10.6	15,527	△1.5	5.3	土木工事は工事完成及び設計変更獲得による利益増だが、建築工事の利益減が上回り前期比減益
営業利益	8,396	72.0	6,618	△21.2	5,715	△13.6	15.5	売上総利益減、販管費増により前期比減益
経常利益	8,422	72.0	6,647	△21.1	5,629	△15.3	17.3	
親会社株主に帰属する当期純利益	5,592	74.0	4,539	△18.8	3,790	△16.5	18.4	
1株当たり年間配当金（円）	26.0		30.0		33.0			期初予想から3円増配

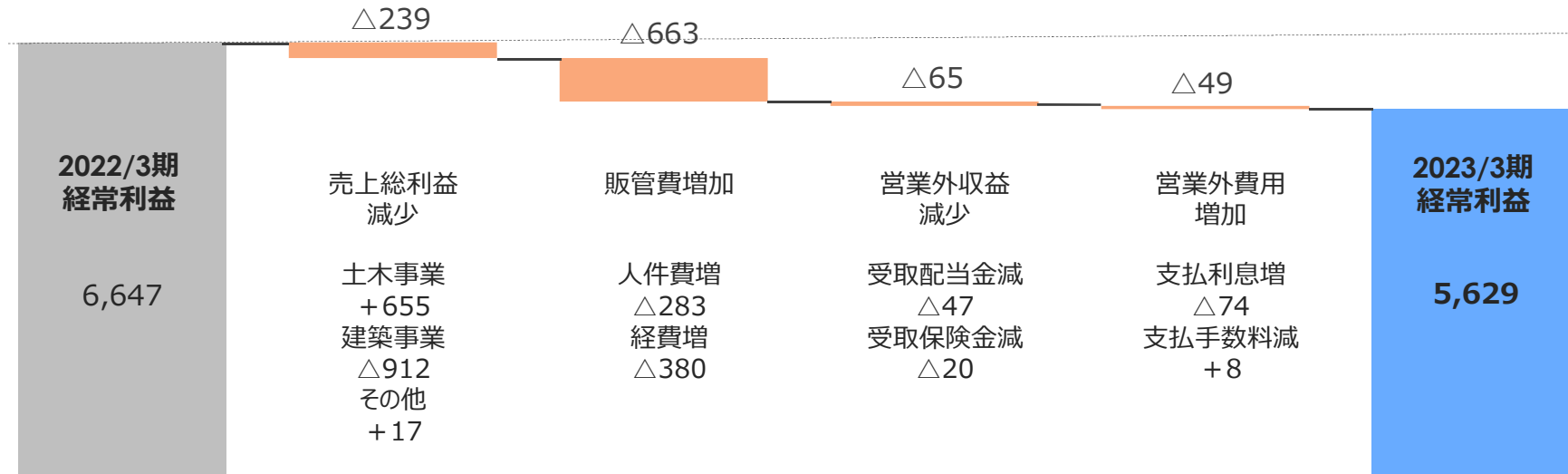




# 利益増減分析（前年同期比）

## 経常利益増減分析

（単位：百万円）



- 売上総利益は、設計変更獲得等があるも前期比2億39百万円減少し、利益率も14.4%から14.2%に0.2%微減
  - 土木事業は、大型鉄道工事の工事完成による利益増加、設計変更見積売上実施等により前期から増加
  - 建築事業は、売上高の減収と、手持ち工事の低採算案件により前期から大幅に減少
- 販管費は、前期比6億63百万円増加
  - 従業員の処遇改善等の実施により人件費が増加、コロナ禍からの制限緩和により出張旅費、交際費等の支出増、東京地区移転に伴う資産除去債務の償却費発生等により経費が増加
- 営業外収益が65百万円減少
  - 受取配当金及び受取保険金が減少
- 営業外費用が49百万円増加
  - 借入金増加による支払利息の増加



# 利益増減分析（期初計画比）

## 経常利益増減分析

（単位：百万円）

		△11	42	21	
	777				
【期初計画】 2023/3期 経常利益	売上総利益 増加	販管費増加	営業外収益 増加	営業外費用 減少	【実績】 2023/3期 経常利益
4,800	土木事業 +1,762 建築事業 △827 その他 △159	人件費増 △276 経費減 +265	受取配当金増 +20 スクラップ売却代増 +31 受取特許料減 △12	支払利息増 △54 為替差損未発生 +76	5,629

- 売上総利益は、7億77百万円増加、売上総利益率は13.3%から14.2%と0.9ポイント増
  - 土木事業は、新設鉄道工事の完成による利益増加や原価低減等により売上総利益が17億62百万円増加し、利益率が15.7%から17.8%と2.1ポイント増
  - 建築事業は、繰越工事の減少、低採算案件の進捗等により売上総利益が8億27百万円減少し、利益率は8.9%から7.5%に1.4ポイント減
- 販管費が期初計画比11百万円増加
  - 長期営業債権の回収、電算費及び研究開発費の計画比支出減があるものの、人件費増加により増加
- 営業外収益が期初計画比42百万円増加
  - 受取は、配当金及びスクラップ売却代等の増加
- 営業外費用が期初計画比21百万円減少
  - 為替差損見込額の未発生を支払利息増が上回る



# セグメント別業績

## セグメント別売上高・売上総利益・受注高

	(単位：百万円、%)	21.3期	22.3期	23.3期		コメント
		実績	実績	実績	前年比	
売上高	土木事業	73,916	67,550	70,247	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、繰越高増、手持工事の進捗、設計変更獲得及び見積売上の実施により増加</li> <li>建築事業は、大型建築製品の出荷があるものの、手持工事の影響により減少</li> <li>製造事業は、外部売上案件増により増加</li> </ul>
	建築事業	41,005	40,160	36,536	△9.0	
	製造事業	1,529	1,374	1,901	38.3	
	その他兼業事業	768	554	641	15.7	
	合計	117,219	109,639	109,327	△0.3	
売上総利益	土木事業	13,398	11,856	12,512	5.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、売上高の増加、完成工事の利益回復、設計変更獲得並びに見積売上の実施により増加</li> <li>建築事業は、利益悪化工事の発生、低採算工事の工事進捗等により減少</li> <li>製造事業は、低採算案件の出荷売上により減少</li> </ul>
	建築事業	3,919	3,635	2,723	△25.1	
	製造事業	75	73	23	△68.5	
	その他兼業事業	239	200	268	33.9	
	合計	17,632	15,766	15,527	△1.5	
受注高	土木事業	80,221	77,799	95,321	22.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、大型新設橋梁及び大型大規模更新工事の受注や設計変更の獲得により増加</li> <li>建築事業は、大型建築製品、PC元請案件の受注及び新規顧客の取り組みを行い増加</li> <li>製造事業は、外部受注案件増により増加</li> </ul>
	建築事業	43,887	32,859	52,757	60.6	
	製造事業	1,529	1,374	1,901	38.3	
	その他兼業事業	768	554	640	15.6	
	合計	126,407	112,588	150,621	33.8	





# 土木事業

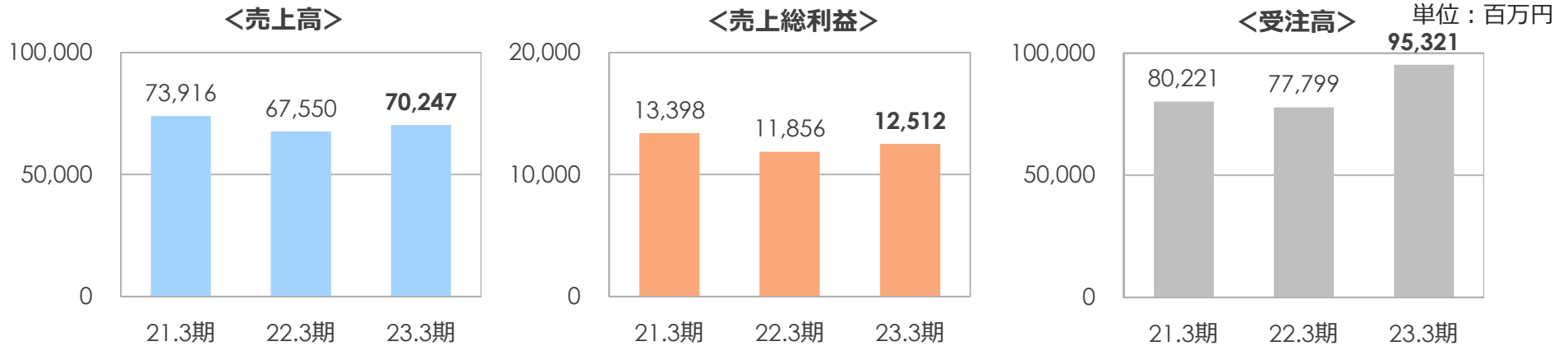
## 業界環境

- 高速道路各社からは、新たな更新計画の発表がされ、今後も大規模更新事業の市場は、安定的に継続する見込み
- PC建協は、2022年度PC市場として会員受注実績が4,186億円と発表。2023年度も前年度同様に高水準な発注を維持する見通し

### 各高速道路会社からの新たな更新計画

高速道路会社	延長	事業費	備考
NEXCO 3社	約500km	約1兆円	23年1月31日発表
首都高速	約22km	約3,000億円	22年12月21日発表
阪神高速	約22km	約2,000億円	23年1月27日発表

## 業績推移



- 新設鉄道工事の完成及び大規模更新事業の設計変更獲得、原価改善等により、売上高、売上総利益ともに前期比増加
  - 繰越高の増加 (+102億円) 及び受注高の大幅増加 (+175億円) により前期から増収増益
- 受注高は、大型新設橋梁及び大規模更新案件や設計変更の獲得等により大きく増加
  - 受注割合 (個別) : 新設橋梁 37.7%、大規模更新・修繕 48.3%

大型受注案件 (受注金額上位3件)

工事名	工事概要
東名高速道路 (特定更新等) 豊川橋他 3 橋床版取替工事	床版取替2千㎡、RC中空床版打換2橋 PC桁補強2橋他
第二神明道路 平野東高架橋他6橋 (PC上部工) 工事	新設橋梁 (PCコンポ橋)、橋面積 約19.6千㎡
北陸自動車道 (特定更新等) 金沢高架橋東 (上り線) 床版取替工事 (その2)	床版取替約6.5千㎡、塗替塗装約10千㎡、支承取替 約170基



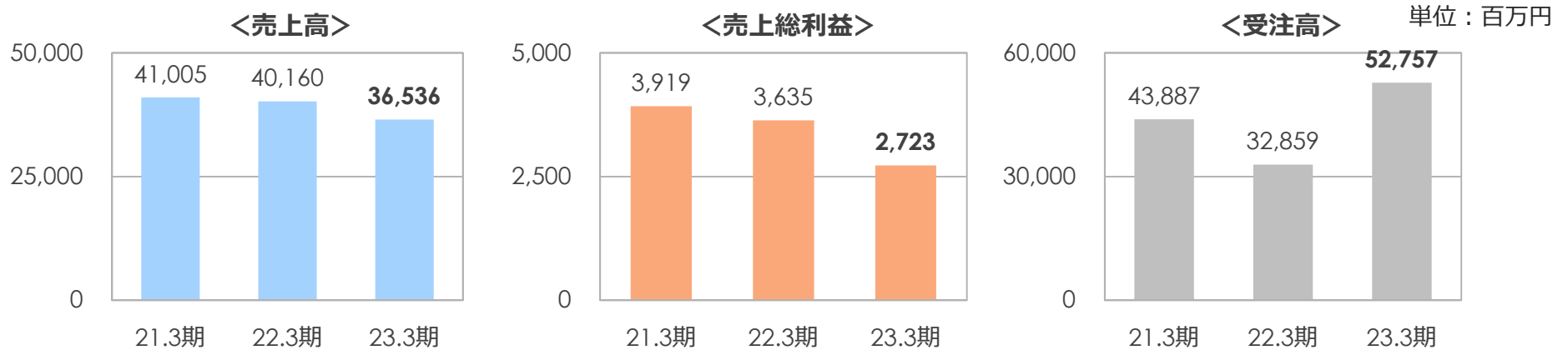
# 建築事業

## 業界環境

- 2022年度民間非住宅建設投資は、前年度比7.2%増の19兆100億円の予測
  - 倉庫・物流施設の着工実績・受注額が増加傾向にあるとともに、事務所、工場および医療・福祉施設も堅調に推移する見込みである。

出典：「建設経済モデルによる建設投資の見通し」  
（一財）建設経済研究所 4月発刊

## 業績推移



- 繰越案件のうち低採算案件の進捗により、売上高、売上総利益ともに前期比減
  - 売上高は繰越工事の減少及び手持工事の進捗遅れ等により減収、売上総利益は低採算案件の割合増加等により利益率低下（9.1% → 7.5%）
- 受注については、引き続き競争激化の渦中にあるものの、大型製品及び大型医療施設工事等の獲得により前期実績及び期初計画から大きく増加
  - 前期実績比 + 19,898百万円、期初計画比 + 10,257百万円

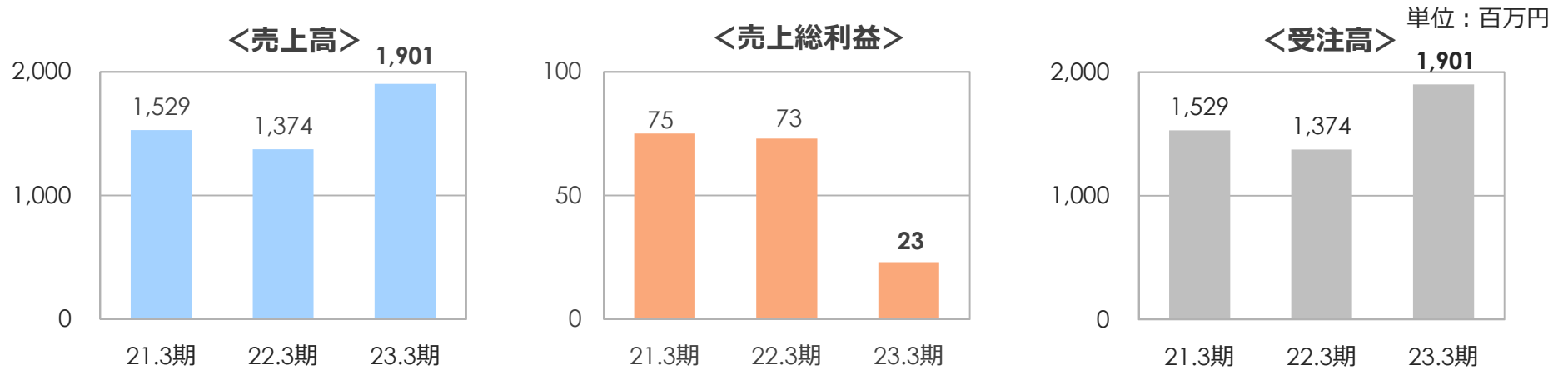
大型受注案件（受注金額上位3件）

工事名	工事概要
某病院新築工事	PCaPC造12階建 建築面積2,302㎡、延床面積22,588㎡
某新築工事	PCa製作・運搬他 54,676t
某病院増築工事	鉄骨造4階建 建築面積2,926㎡、延床面積7,299㎡

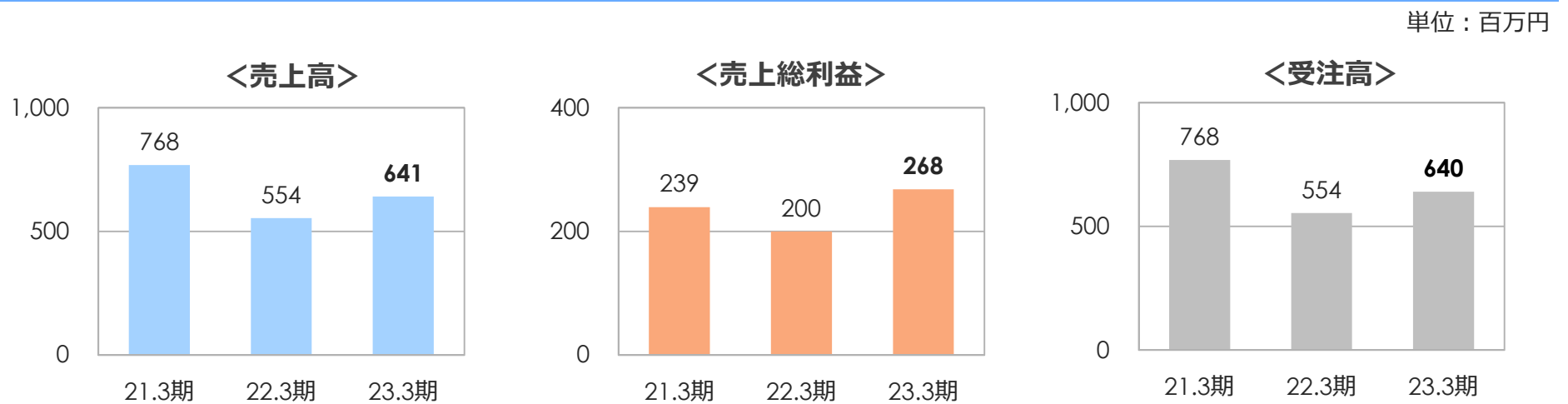


# 製造事業及びその他兼業事業

## 製造事業 - 業績推移



## その他兼業事業 - 業績推移





# 貸借対照表

## 連結貸借対照表の主な項目

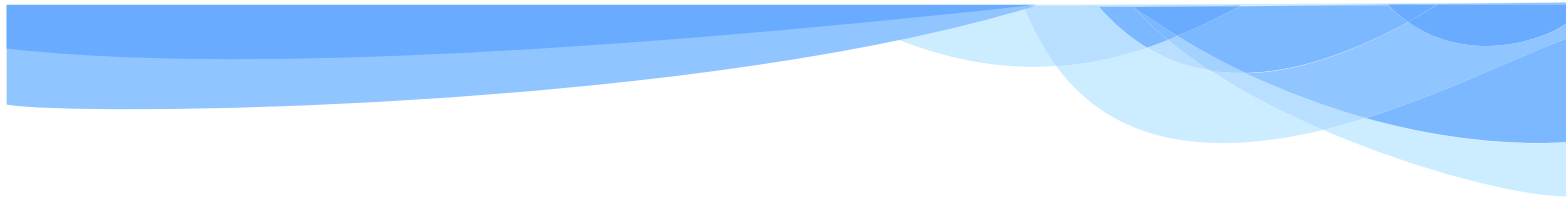
(単位：百万円)	21.3期	22.3期	23.3期		コメント
	①実績	②実績	③実績	増減 (③-②)	
資産合計	95,423	93,100	116,082	22,981	
流動資産	73,704	70,746	91,643	20,897	・買掛債務の支払等により現金預金が599百万円減少
現金預金	10,456	9,947	9,347	△599	
受取手形・完成工事未収金等	54,861	-	-	-	・売掛債権回収期間の長期化等により、受取手形、完成工事未収入金及び契約資産等が21,140百万円増加
受取手形・完成工事未収入金及び契約資産等	-	53,082	74,222	21,140	
固定資産	21,719	22,354	24,438	2,084	・社員寮の新築、リース資産等の新規購入、工場設備の更新等により有形固定資産が1,364百万円増加
有形固定資産	14,126	14,929	16,294	1,364	
無形固定資産	136	119	99	△19	・破産更生債権等の取り崩し242百万円等の減少があるものの、長期差入保証金449百万円等の増加が上回り、投資その他の資産が739百万円増加
投資その他の資産	7,456	7,305	8,044	739	
負債合計	53,206	47,567	68,210	20,642	
流動負債	43,378	37,369	58,118	20,749	・資金需要の増加、売掛債権回収期間の長期化により短期借入金が19,885百万円増加
短期借入金	6,616	6,008	25,893	19,885	
1年内返済予定の長期借入金	-	-	600	600	・未払法人税等618百万円増加
固定負債	9,828	10,197	10,091	△106	
長期借入金	4,000	4,000	3,400	△600	
純資産合計	42,216	45,533	47,872	2,339	・親会社株主に帰属する当期純利益3,790百万円を計上、配当金1,421百万円を支出
株主資本	39,536	42,938	45,096	2,158	
その他包括利益累計額	2,679	2,594	2,775	181	・上場株式等の時価評価額の増加等により、その他有価証券評価差額金が118百万円増加
負債純資産合計	95,423	93,100	116,082	22,981	



# キャッシュ・フロー

## 連結キャッシュ・フローの主な項目

(単位：百万円)	21.3期	22.3期	23.3期	コメント
	実績	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,684	2,599	△16,708	
税金等調整前当期純利益	8,227	6,640	5,609	
減価償却費	741	794	1,012	
退職給付に係る資産の増減	△35	△182	△57	<増加要因> ・営業収益の積み上げ
退職給付に係る負債の増減	△1,388	105	203	
工事損失引当金増減	△41	△108	40	<減少要因> ・減価償却費の計上
売上債権及び契約資産の増減 (△は増加)	△10,801	353	△20,899	
たな卸資産の増減 (△は増加)	72	1,139	99	・工事売上高の計上による売上債権及び契約資産の増加
仕入債務の増減 (△は減少)	△697	△662	△97	
未成工事受入金の増減	△757	-	-	・法人税の支払による法人税等支払額の減少
契約負債の増減	△757	△1,385	△352	
その他営業活動フロー	1,995	△498	△860	
法人税等支払額	△1,001	△3,596	△1,406	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△675	△1,150	△1,956	
有形固定資産取得	△722	△1,285	△1,605	・社員寮の新築、工場設備の更新等による有形固定資産の取得
その他投資活動フロー	47	134	△350	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△664	△1,970	18,060	
短期借入金純増減	△87	△621	19,885	・短期借入金の増加
リース債務返済による支出	△55	△84	△144	
自己株式の取得による支出	△0	△0	△235	・配当金の支払
配当金支払額	△947	△1,234	△1,421	
その他財務活動フロー	△73	△29	△22	
現金及び現金同等物期末残高	10,456	9,947	9,347	



## 2. 2024年3月期 業績予想



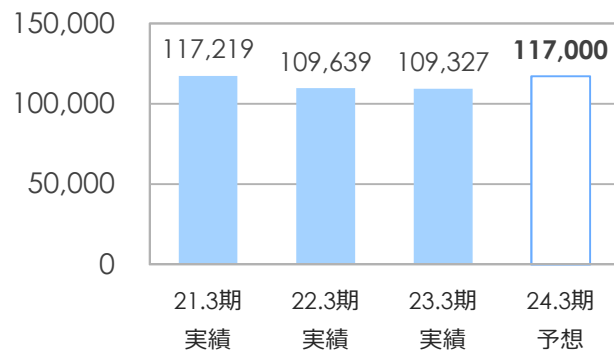


# 業績予想

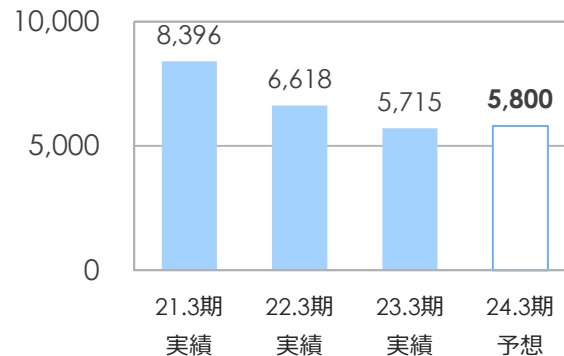
## 連結業績予想

(単位：百万円、%)	21.3期		22.3期		23.3期		24.3期		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	117,219	10.9	109,639	△6.5	109,327	△0.3	117,000	7.0	土木事業は、若干減少するものの、建築事業は、繰越高の増加により大幅増収
売上総利益	17,632	22.6	15,766	△10.6	15,527	△1.5	15,800	1.8	土木事業の減収による減益を見込むも、建築事業の増収による増益見込が上回り増益
営業利益	8,396	72.0	6,618	△21.2	5,715	△13.6	5,800	1.5	
経常利益	8,422	72.0	6,647	△21.1	5,629	△15.3	5,700	1.3	
親会社株主に帰属する当期純利益	5,592	74.0	4,539	△18.8	3,790	△16.5	3,850	1.6	
1株当たり年間配当金(円)	26.0		30.0		33.0		34.0		配当性向40%以上を予定 予定：中間配当17円、期末配当17円

<売上高>

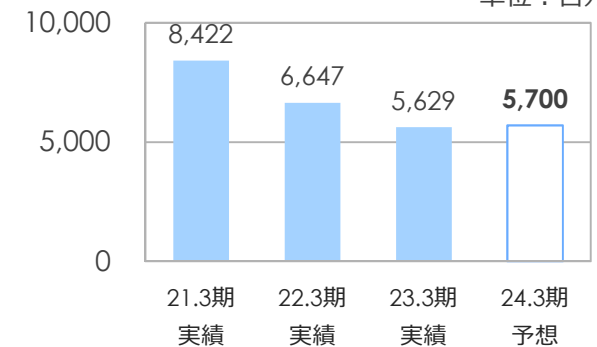


<営業利益>



<経常利益>

単位：百万円





# セグメント別業績予想

## セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位：百万円、%)	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期		コメント	
	実績	実績	実績	予想	前年比		
売上高	土木事業	73,916	67,550	70,247	69,300	△1.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、繰越工事高の増加、手持工事の順調な進捗を見込むも減収</li> <li>建築事業は、繰越工事高の増加より大幅な増収</li> </ul>
	建築事業	41,005	40,160	36,536	45,000	23.2	
	製造事業	1,529	1,374	1,901	1,700	△10.6	
	その他兼業事業	768	554	641	1,000	55.9	
	合計	117,219	109,639	109,327	117,000	7.0	
売上総利益	土木事業	13,398	11,856	12,512	11,700	△6.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、設計変更を見込むも減収見込に伴い前期比で減益</li> <li>建築事業は、手持工事の進捗見込及び増収により増益</li> </ul>
	建築事業	3,919	3,635	2,723	3,600	32.2	
	製造事業	75	73	23	200	760.9	
	その他兼業事業	239	200	268	300	11.9	
	合計	17,632	15,766	15,527	15,800	1.8	
受注高	土木事業	80,221	77,799	95,321	69,300	△27.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木事業は、新設橋梁及び大規模更新・修繕工事の応札工事の選別受注を見込み減少</li> <li>建築事業は、官公庁案件獲得、エリア展開を進めるが、前期受注増加の反動により減少</li> </ul>
	建築事業	43,887	32,859	52,757	43,000	△18.5	
	製造事業	1,529	1,374	1,901	1,700	△10.6	
	その他兼業事業	768	554	640	1,000	56.1	
	合計	126,407	112,588	150,621	115,000	△23.6	





### 3. 中期経営計画2022の進捗



# 中期経営計画2022の進捗

## 2023.3期実績と中計数値目標との対比

(単位：百万円)

		2023.3期中計目標		2023.3期実績		2023.3期中計目標との差額		達成率
受注	土木事業	68,000		95,321		27,321		140.2%
	建築事業	42,500		52,757		10,257		124.1%
	製造事業	1,700		1,901		201		111.9%
	兼業事業	800		640		△159		80.1%
	合計	113,000		150,621		37,621		133.3%
売上高	土木事業	68,300		70,247		1,947		102.9%
	建築事業	40,000		36,536		△3,463		91.3%
	製造事業	1,900		1,901		1		100.1%
	兼業事業	800		641		△158		80.2%
	合計	111,000		109,327		△1,672		98.5%
売上利益	土木事業	15.7%	10,750	17.8%	12,512	2.1%	1,762	116.4%
	建築事業	8.9%	3,550	7.5%	2,723	△1.4%	△826	76.7%
	製造事業	7.9%	150	1.2%	23	△6.7%	△126	15.5%
	兼業事業	37.5%	300	41.8%	268	4.3%	△31	89.4%
	合計	13.3%	14,750	14.2%	15,527	0.9%	777	105.3%
販売費及び一般管理費		8.8%	9,800	9.0%	9,811	0.2%	11	100.1%
営業利益		4.5%	4,950	5.2%	5,715	0.7%	765	115.5%
経常利益		4.3%	4,800	5.1%	5,629	0.8%	829	117.3%
当期純利益		2.9%	3,200	3.5%	3,790	0.6%	590	118.4%

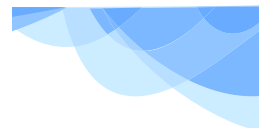


# 中期経営計画2022の進捗

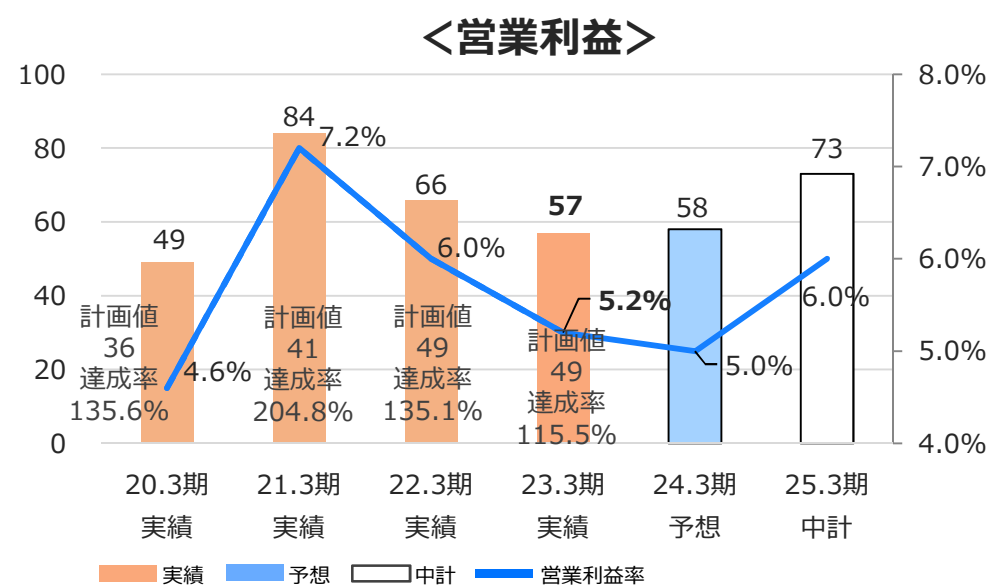
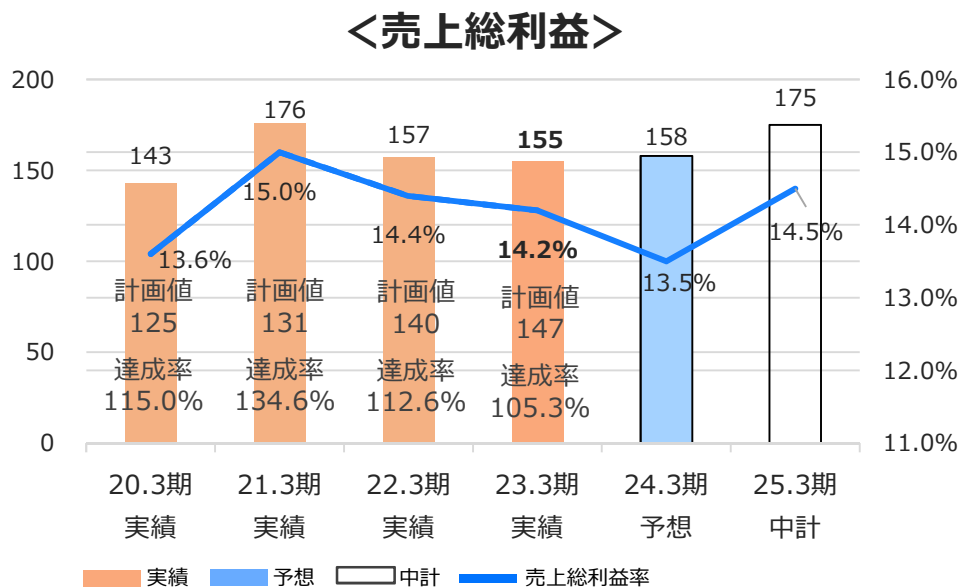
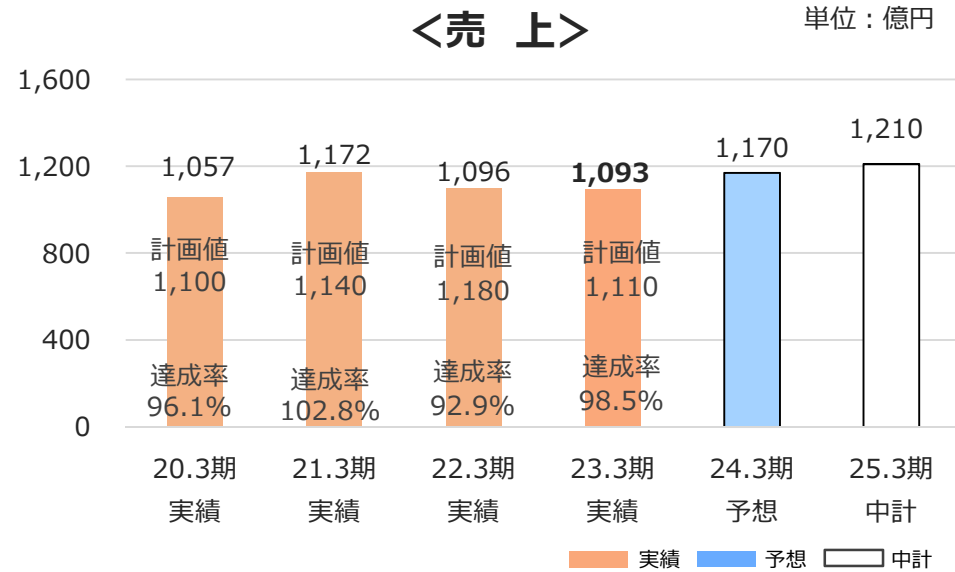
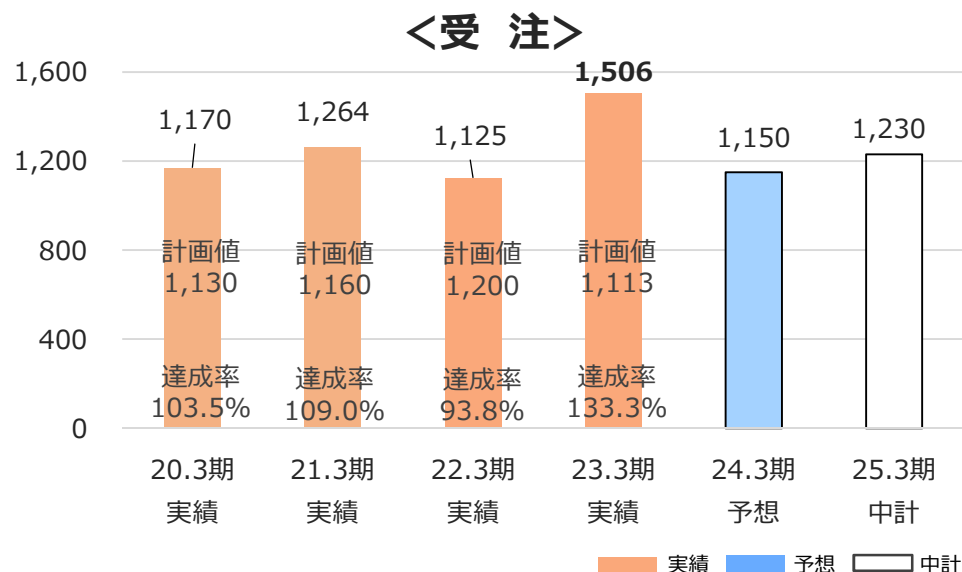
## 2024.3期業績予想の中計数値目標との対比

(単位：百万円)

		2024.3期 予想		2024.3期 中計目標		2024.3期と中計目標 との差額	
受注	土木事業	69,300		72,400		△3,100	前期受注実績大幅増加の反動による減少
	建築事業	43,000		43,000		0	
	製造事業	1,700		1,700		0	
	兼業事業	1,000		900		100	
	合計	115,000		118,000		△3,000	
売上高	土木事業	69,300		69,400		△100	
	建築事業	45,000		42,000		3,000	繰越高増加による増加
	製造事業	1,700		1,700		0	
	兼業事業	1,000		900		100	
	合計	117,000		114,000		3,000	
売上利益	土木事業	16.9%	11,700	16.7%	11,600	0.2%	100
	建築事業	8.0%	3,600	9.0%	3,800	△1.0%	△200
	製造事業	11.8%	200	11.8%	200	0.0%	0
	兼業事業	30.0%	300	33.3%	300	△3.3%	0
	合計	13.5%	15,800	13.9%	15,900	△0.4%	△100
販売費及び一般管理費		8.5%	10,000	8.8%	10,000	△0.3%	0
営業利益		5.0%	5,800	5.2%	5,900	△0.2%	△100
経常利益		4.9%	5,700	5.4%	6,100	△0.5%	△400
当期純利益		3.3%	3,850	3.6%	4,100	△0.3	△250



# 中期経営計画2022の進捗



# 中期経営計画2022の進捗

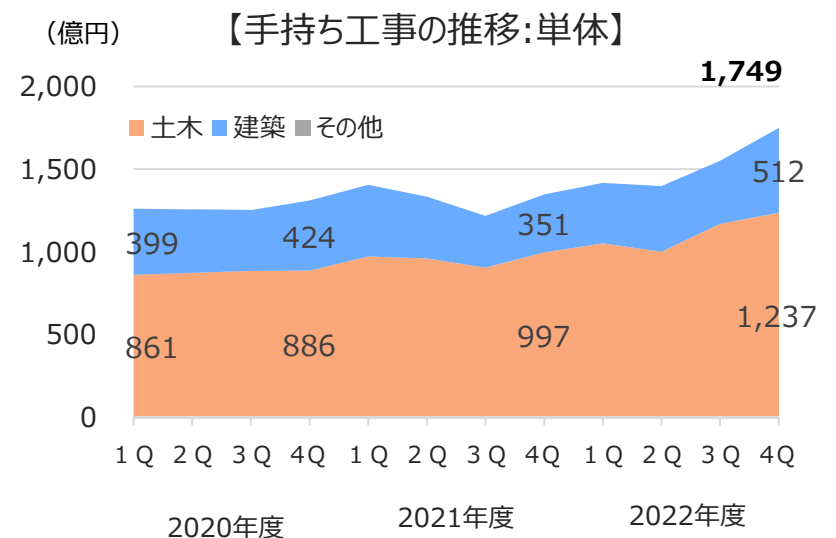
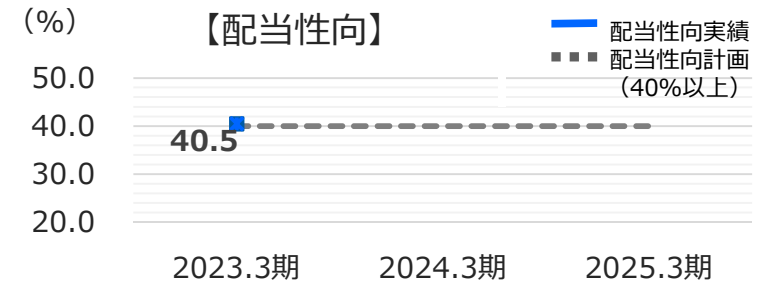
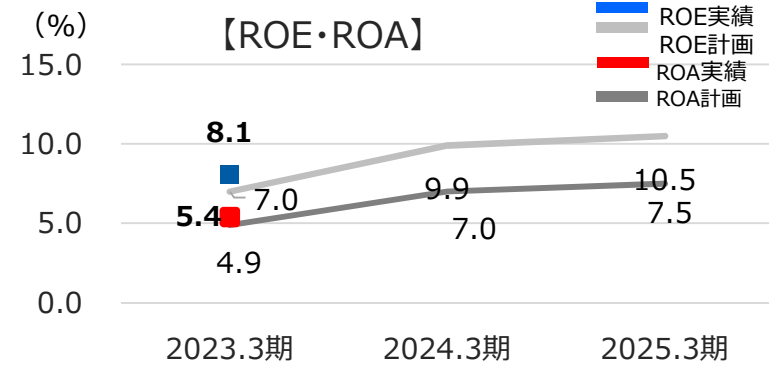
## 資本政策・経営指標

長期経営ビジョンの実現に向け、財務基盤や健全性を確保した上で「生産性・収益性の強化」や「成長分野の拡大」に向けた投資を行い、マルチステークホルダーにとって有益な価値を提供できる強い企業集団を目指します。

	目標値	2023年3月期進捗
資本政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業利益率 4.5%</li> <li>ROA 4.9%</li> <li>ROE 7.0%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業利益率 5.2%</li> <li>ROA 5.4%</li> <li>ROE 8.1%</li> </ul>
財務の健全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己資本比率 40%以上</li> <li>DELシオ 0.30倍以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己資本比率 41.2%</li> <li>DELシオ 0.66倍</li> </ul>
投資	【3カ年累計】 <ul style="list-style-type: none"> <li>設備投資 40億円</li> <li>研究開発 20億円</li> <li>人財 15億円</li> <li>不動産 25億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備投資 12億円</li> <li>研究開発 5億円</li> <li>人財 12億円</li> <li>不動産 --億円</li> </ul>
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>配当性向 40%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配当性向 40.5%</li> </ul>

## 手持ち工事量は1,749億円で過去最高規模

土木事業では大規模更新事業を主軸に1,237億円、建築事業についても512億円で過去最高の水準まで積み増しております。人財ローテーション等を積極的に行い、的確な消化生産体制の強化やDXの更なる加速により生産性の向上に努め、利益の確保はもちろんの事、近年横ばいで推移している売上高も上昇させてまいります。





# 主要テーマの進捗状況

基本方針	2023年3月期進捗	2024年3月期予定
社会・環境課題の解決を事業機会とし成長を実現させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木 大規模更新・修繕工事、新設橋梁工事において受注面でトップカンパニーを維持</li> <li>建築 注力分野（物流・医療・教育施設）で大型プロジェクトを受注</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木 売上面でもトップカンパニーを目指す</li> <li>建築 注力分野での競争力を高める。さらにプレキャスト（PC・RC）建築への取り組みを強化する</li> </ul>
カーボンニュートラルの推進と新技術開発を追求する	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラル推進 ZEBへの取り組みや環境負荷低減コンクリート開発の本格化</li> <li>新技術開発 多分割断面床版取替技術の採用（土木） 扁平梁が建築技術性能証明を取得（建築）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラルの推進 環境負荷低減コンクリートの工場実装への取り組みを実施 技術研究所のZEB化完了と性能検証</li> <li>新技術開発 新たな大規模更新関連技術の開発 独自メンテナンス技術のブラッシュアップ</li> </ul>
DXを活用した業務改革を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>PSMAX 生産性向上のための開発技術18現場で採用 BIM/CIMトレーニング実施</li> <li>IT活用 製品トレサビリティシステムを試行開始 IT人材育成プログラム作成中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PSMAX PSMAX活用推進現場での試用及び評価実施 設計、施工要員へのBIM/CIMトレーニング継続と拡大</li> <li>IT活用 インボイス、電子帳簿保存法への対応 情報セキュリティの強化</li> </ul>
事業環境変化や新技術に対応した人材育成と外部連携を強化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人事制度への移行、新評価制度の運用</li> <li>IT人材育成準備の社内PC関連セミナー実施</li> <li>福利厚生関連制度の拡充</li> <li>従業員の生活支援、待遇改善（インフレ特別支援金・20周年記念事業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新評価制度浸透に向けた定期的な評価者訓練計画の策定</li> <li>IT人材育成教育プログラム検討、実施</li> <li>働き方改革の推進継続</li> <li>従業員の待遇改善、福利厚生拡充継続</li> </ul>

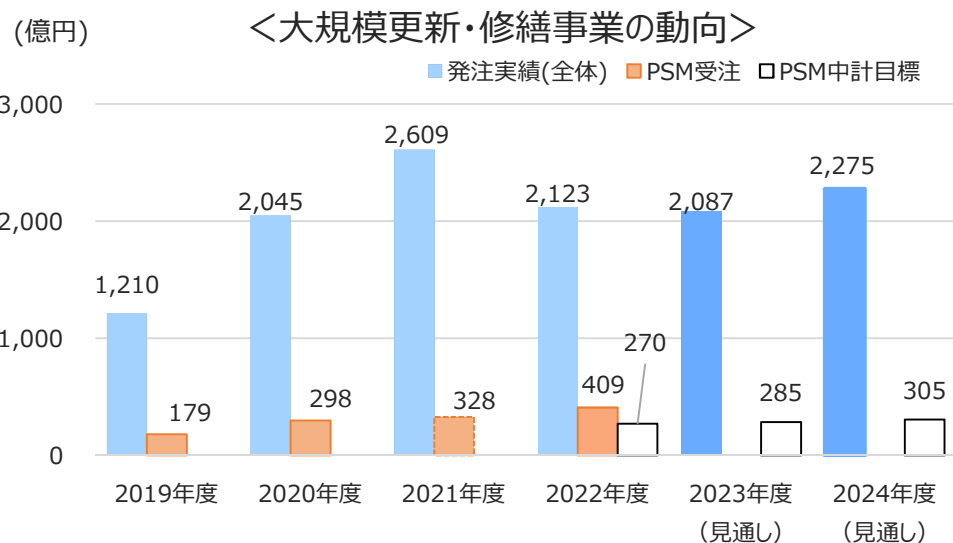
# 主要テーマの進捗状況

## 大規模更新・修繕工事を主力事業として発展・成長させる

- NEXCOをはじめとする高速道路会社からの大規模更新・修繕事業は、高水準な発注を維持する見込み
  - 新規工事（豊川橋、本谷川橋）や継続契約工事（金沢東、上平川）などの大型案件の受注により、トップシェアを維持
  - 2022年度 受注実績：409.6億円

主な新規受注工事の概要

工事名（発注者）	工事概要
東名高速道路	・床版取替（2,000m <sup>2</sup> ）
豊川橋他3橋床版取替工事 （NEXCO中日本）	・PC桁補強、RC中空床版打替 ・支承取替 他
中央自動車道	・外ケーブル補強（3橋）
本谷川第1橋他2橋橋梁補修工事 （NEXCO中日本）	・グラウト再注入（3橋） ・断面修復工 他



## プレキャストPC建築に対する取り組み

- PCaPC扁平梁工法「Hiratto」を開発
 

本工法は従来の梁よりも幅広で梁の高さを抑えたことにより、

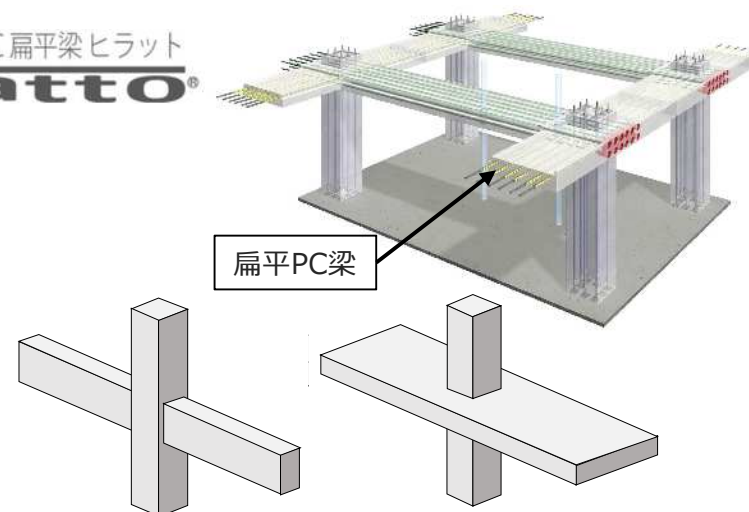
  - ・室内空間の拡大やレイアウトの自由度を向上
  - ・設備配管の制約軽減や、将来の改修に柔軟に対応可能
  - ・PCaPC工法による省力化と工期短縮
- 今後の展開
 

2023年2月に建設技術性能証明を取得、本工法の採用に向けて積極的に営業展開を図る

PCaPC 扁平梁ヒラット  
**Hiratto**



建設技術性能証明







# 主要テーマの進捗状況

## カーボンニュートラルの推進と新技術開発を追求する

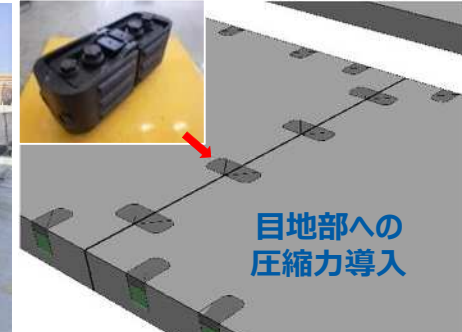
- カーボンネガティブコンクリートの各種性能試験の実施（NEDOグリーンイノベーション基金事業にコンソーシアムの一員として参画）
- 工場における蒸気養生を不要とするコンクリート材料を開発。工場での実装に向け、実物大モデルで性能検証
- 取替を用意とする舗装用PCaPC版の新たな継手を開発



カーボンネガティブコンクリートの開発（炭酸化養生装置）



蒸気養生不要とするコンクリートで製造したPCaPC床版



新たな舗装用PCaPC版継手

## DXを活用した業務改革を推進する

- PCaPC床版製造の生産性向上を目指し、各工種の自動化に向けた取り組みを推進



PCaPC床版製造・緊張装置  
製造場所を限定しない独立して緊張が可能な装置



プレキャスト壁高欄製造装置  
当社独自技術「フルキャスト壁高欄」を効率的に製造する装置

- QRコードによるプレキャスト部材の製品管理システムを構築し、実施工に適用







# 主要テーマの進捗状況

## 建築分野におけるBIM活用促進

- 各現場での運用への足掛かりとして現場技術者対象にBIM研修を実施。営業・現場といった様々な場面で発注者のニーズに応えるべく、活用を促進



建物外観や建物内部の完成イメージを視覚化することでお客様のニーズを今まで以上に正確に捉え、設計に反映することが可能



「松山自動車道 松山IC管理施設増築工事」ではBIMを活用した現場管理として、現場の「見える化」を実施  
建築の設備の配管ルートの確認やクレーンの収まり確認では、従来の2次元図面より視認性が高く、関係者との調整が円滑と好評



### BIMとは

BIMとは、Building Information Modeling (ビルディング インフォメーション モデリング) の略称です。コンピューター上に作成した3次元の建築デジタルモデルに、コストや仕上げ、管理情報などを追加した建築物のデータベースを、設計、施工から竣工後の維持管理までのあらゆる工程で情報活用を行うためのソリューションであり、現在主流になりつつあるワークフローです。

## 働きがいのある職場環境を目指して

多様な人材が活躍できる職場環境を構築するべく、新人事制度への移行と新評価制度の運用を開始しております。このほかにもワークライフバランスや福利厚生面の充実にもさらに積極的に取り組み、従業員に働きがいのある職場環境を提供していきます。

- 2022年 4月 新人事制度へ移行
- 10月 新評価制度 評価者研修開始
- 2023年 3月 新評価制度 運用開始

- 今後の予定
  - ・新賃金体系および昇格制度への移行
  - ・新評価制度評価者訓練の定期実施計画策定
  - ・新人事制度、新人事システム、新評価制度のブラッシュアップ



「新評価制度」評価者研修



現場派遣者用独身寮完成 (さいたま市)



# Appendix. 参考

# 会社概要・沿革

## 会社概要

名 称	株式会社ピーエス三菱
本 社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル3階 Tel (03)-6385-9111
設 立	1952年3月1日
資 本 金	42億1,850万円
上 場	東京証券取引所プライム
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</li> <li>2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</li> <li>3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業</li> <li>4.プレストレストコンクリート（PC）製品及びプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売</li> <li>5.プレストレストコンクリート（PC）工事用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸</li> <li>6.鉋物の採掘及びその請負</li> <li>7.不動産の売買、賃貸及びそれらの仲介ならびに所有管理</li> <li>8.運送業及び倉庫業</li> <li>9.損害保険代理業及び生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業</li> <li>10.前各号に関連ある一切の業務</li> </ol>

## 沿革

	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業（現 三菱重工業(株)）七尾造船所の諸施設及び 従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉋業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1989	インドネシアにて合併会社 PT.Komponindo Betonjaya（略称：PT.KOBE）社設立	
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	



長生橋（石川県七尾市）

1952年に完成したわが国初のプレストレストコンクリート橋。  
2001年に河川改修に伴って撤去され、一部が希望の丘公園に歩道橋として保管されている。  
海岸線近くの立地条件にありながら、撤去時の調査において、驚異的な耐久性が確認された。

# グループネットワーク

## ピーエス三菱グループ（主要国内5社）



- 支店
- ・東京土木支店
  - ・東京建築支店
  - ・札幌支店
  - ・東北支店
  - ・大阪支店
  - ・名古屋支店
  - ・広島支店
  - ・九州支店
- 営業所
- ・22箇所

株式会社ピーエスケー



PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売及びこれらの運用・活用に関するエンジニアリング

株式会社ニューテック康和



道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル

ピー・エス・コンクリート株式会社



PC製品の製造販売

菱建商事株式会社



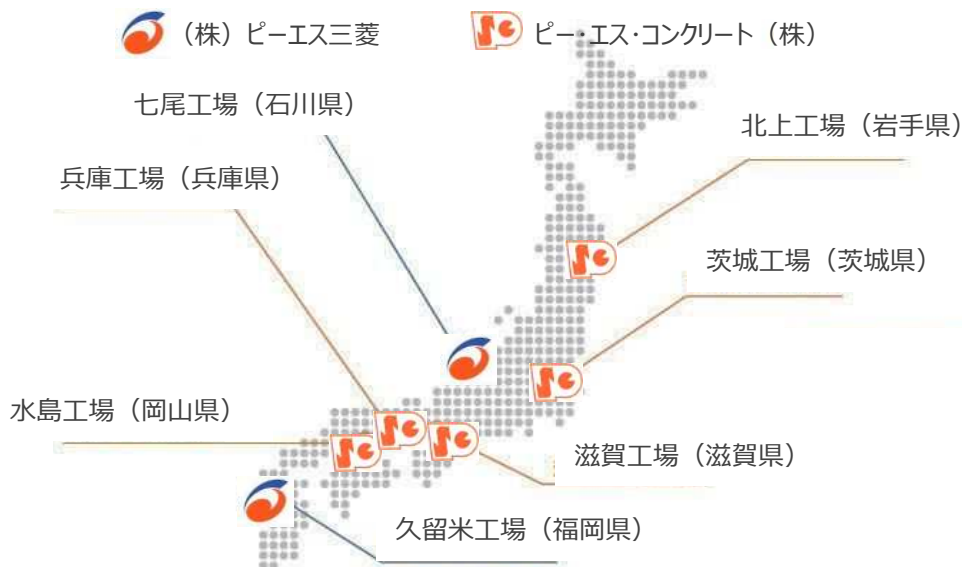
建築資材販売、物流、不動産関連など

菱建基礎株式会社

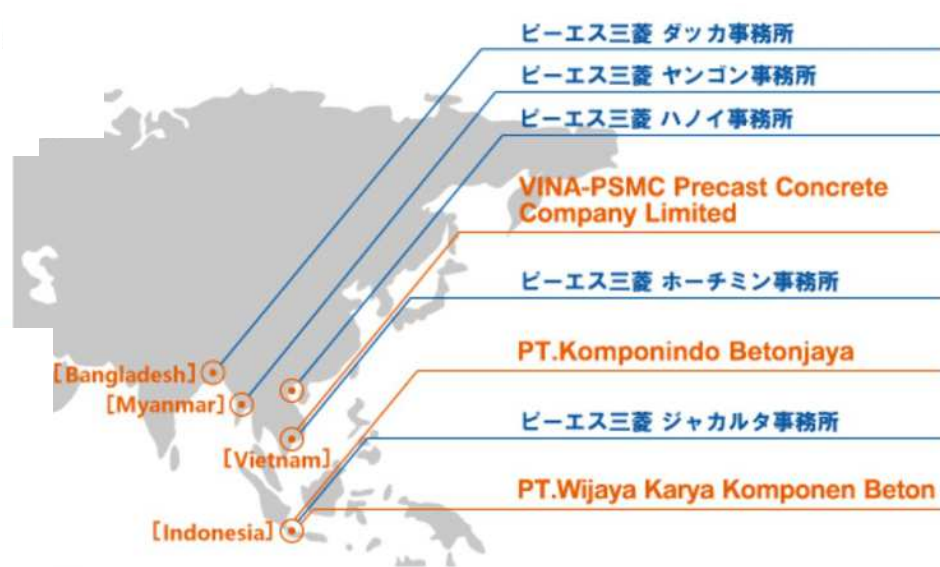


土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

## 国内工場ネットワーク



## 海外ネットワーク







# 事業構成

## 建築建設事業

### 【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 三菱グループの唯一のゼネコンとして、高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供

- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売



桑名市津波避難施設

## 製造事業

- コンクリート製品の製造販売

## 土木建設事業

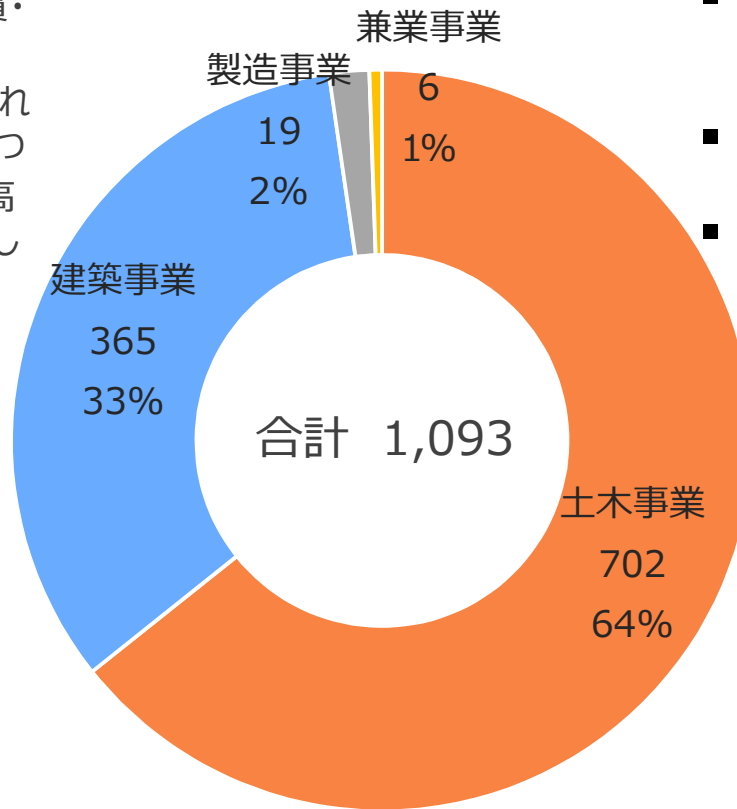
### 【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップカンパニーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開



常磐自動車道大久川橋

## セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率  
(2023.3月期 単位：億円)

## その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

# プレストレストコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa）技術とは

## プレストレストコンクリート（PC）とは

PCは「高強度の鋼材によって、あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点である“引張には弱い”を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、梁の高さを抑えながら、その長さを大きく取ること（大スパン化）ができます



## プレキャスト（PCa）とは

現地以外の工場などで、あらかじめコンクリート部材を製作することです

- 工場で生産されるため、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組みコンクリートを施工する場合より、騒音や粉じんの発生を抑え周辺環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます





# DXに対する取り組み

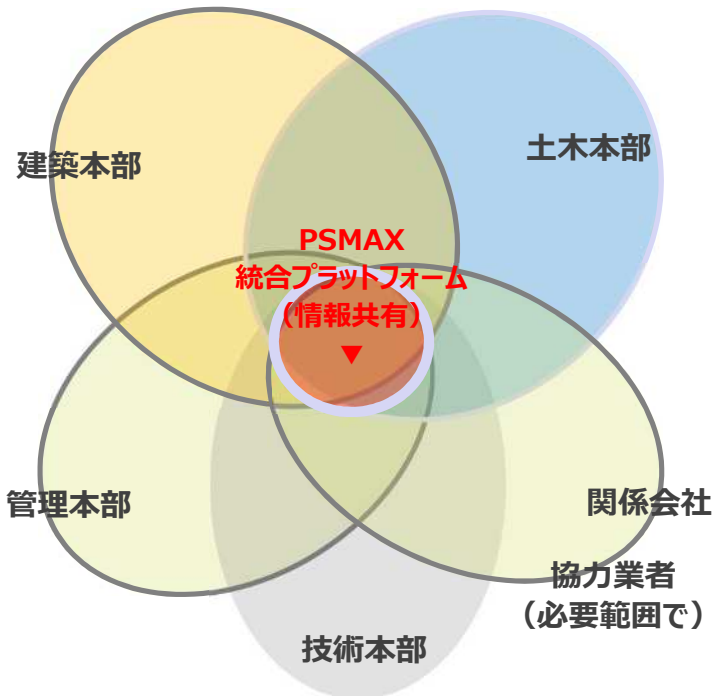
## 全社横断的組織により生産性向上に向けたシステム構築を推進

- デジタル技術の活用によって、建設事業やビジネスモデルを変革
  - 生産性向上、企業の社会的責任（CSR）
- 全社横断的組織により生産性向上に向けたシステム構築を推進



**PSM-Advanced Construction System(PSMACS)**  
 最大限に進化したピーエス三菱Grの※建設システム

**(ICT・AIを活用した情報化と機械化を融合・進化させ、  
 当社グループ独自の建設システムを構築する )**



### ※ PSMAXの概要

- 1) クラウドを活用したPSMAX統合プラットフォームの構築
- 2) 省力・省人化目的の要素技術による生産性/利益向上
- 3) BIM/CIMの構築と要素技術との連携による生産管理
- 4) 部署内外の情報連携による不適合生産・手戻りの回避
- 5) 共有情報を活用した施工の機械化、工場のオートメーション化





# DXに対する取り組み

## PSMAX システム概要



調査・設計・施工

維持管理



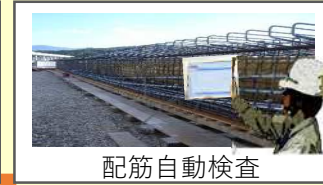
ドローン (UAV測量)



3Dスキャナ (3次元測量)



スマートグラス



配筋自動検査



icチップ・QRコード

PSMAX統合プラットフォーム

# CLOUD

■情報共有  
(収集・蓄積・分析・3Dモデリング)

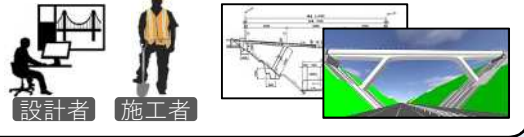
# AI

人工知能

インターネット

クラウドデータベース

# CIM



設計者 施工者

# BIM



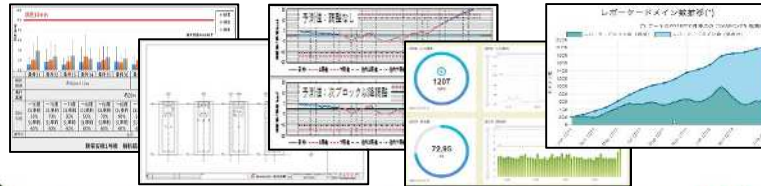
設計 施工者

【本支店・事務所】

モニタリング



自動調書化・データ可視化



【作業所】

レポート共有



モバイルデバイス





# DXに対する取り組み

## これまでの取り組み状況

- 生産性向上に向けた技術開発を推進  
「PSMAX推進委員会」の開発案件を現場実装へ

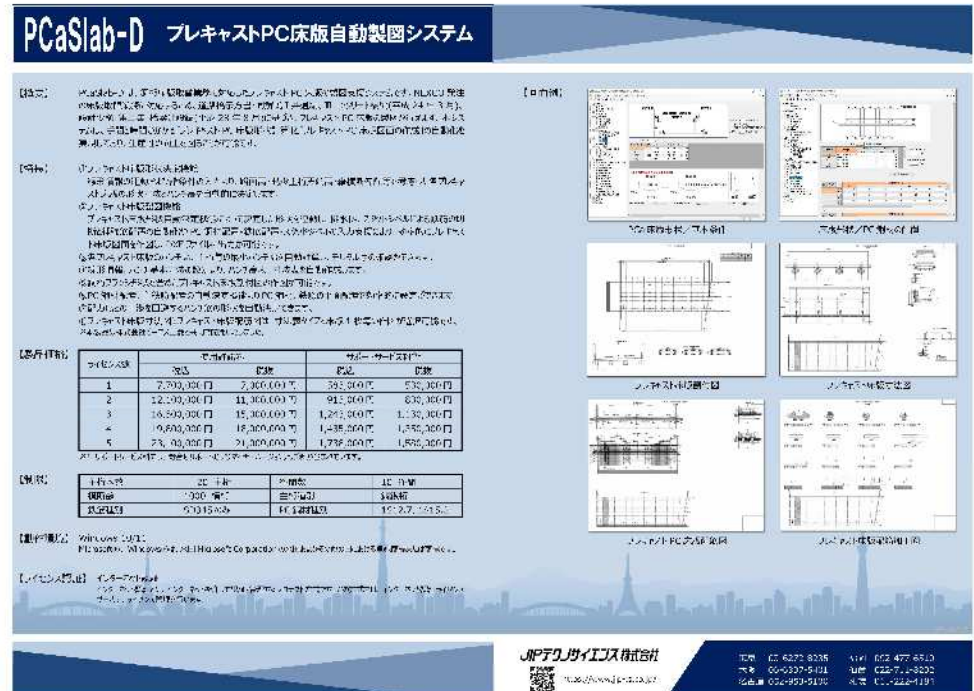


## PCa床版自動製図システム

高速道路リニューアルプロジェクト工事における床版取替設計の生産性を向上させるため、PCaPC床版の形状を自動決定し、図面化するシステムをJIPテクノサイエンス（株）と共同開発し、5月29日より本システム外部販売を開始し、収益の多様化に向け新たな取り組みも開始しました。更新床版の作図業務を約40%低減することができ、現在も製造時の帳票追加など更なる機能向上・生産性向上に向けたシステムの改良を継続実施中です。



入力画面・出力図面例  
CIM対応を見据え、3Dデータの出力機能も搭載



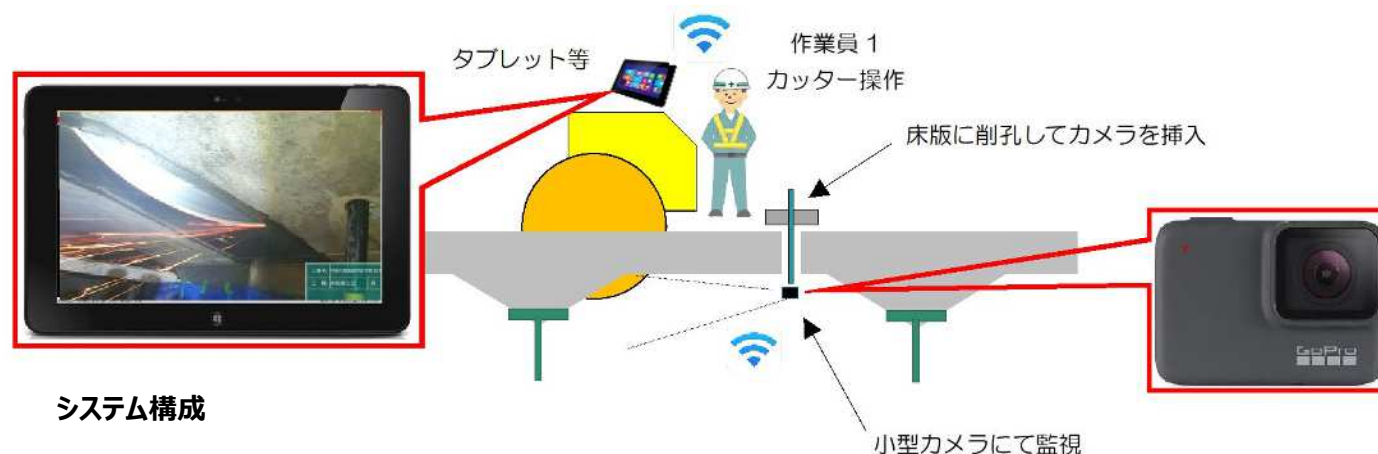
出所：JIPテクノサイエンス社  
新製品『PCaSlab-D』(プレキャストPC床版自動製図システム)が  
5月29日にリリース！

# DXに対する取り組み



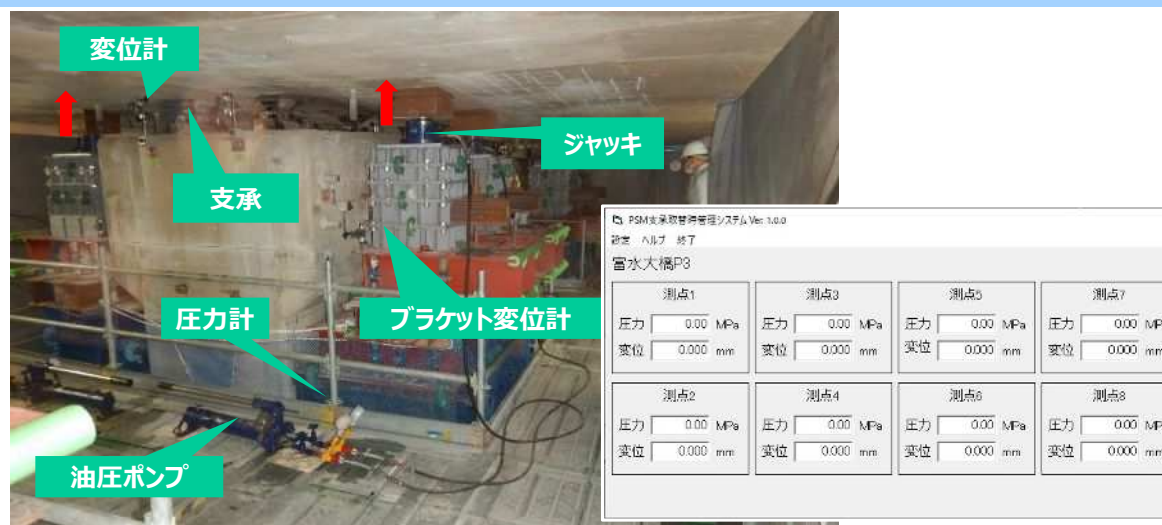
## 床版切断監視カメラ (Blade Watcher)

床版更新工事に於いて既設の床版を道路カッターにて切断する際に誤って主桁を切断しないように管理するシステムです。これにより下側への監視員の配置が不要となり省力化できる他、下面は床版の破片落下の危険もあるため安全性も向上しました。



## 支取替時のジャッキアップ管理システム

支取替工事に於いて、古くなった支取の取替時には、主桁をジャッキアップして支取を取り外す必要があります。その時、ジャッキの圧力と変位を管理する必要がありますが、本システムで複数の圧力計と変位計をPC上でリアルタイムに管理する事が出来ます。読み取りの要員を減らし、読み取り誤差をなくし、時間の短縮も可能になります。



ジャッキアップ状況と画面表示





# 大規模更新・修繕事業の展望と当社の取り組み

大規模更新・修繕事業の定義と工事内容は以下の通り。

- 大規模更新・・・補修を実施しても長期的には機能が保てない構造物を再施工することにより、構造物の機能維持と性能強化を図るもの。（桁の架替、床版の取替（RC床版→プレキャストPC床版））
- 大規模修繕・・・損傷した構造物の一部を補修・補強することにより、性能・機能を回復するとともに、新たな損傷の発生を抑制し構造物の長寿命化を図るもの。（グラウト再注入、外ケーブル補強、支承取替など）

**床版の取替**  
耐久性の高いコンクリート床版に取り替えます。

■ 橋梁損傷状況  
コンクリートのはがれ落ち、浮き  
コンクリートのひび割れ、遊離石灰の析出

**高性能床版防水の施工**  
水、塩化物イオンがコンクリート床版に浸透するのを遮断し、劣化の進行を抑えるために、防水層に高性能な床版防水を施工します。

**桁補強**  
耐久性を高めるために、桁に補強部材を取り付けます。

■ 補強部材の取り付け

**鋼桁塗装 (塗替塗装)**  
劣化した塗装や錆を取り除き、塗装し直します。

**支承取替**  
劣化・損傷や橋梁の機能向上のために取替えます。

### PC(プレストレストコンクリート)橋におけるPC鋼材の腐食

PC橋は、桁内にシースを配置し、シース内に緊張材(PC鋼材)を通す構造です。海岸からの水分や飛来塩分、凍結防止剤などの影響で、シースに塩化物イオンが浸透した場合にPC鋼材が腐食します。

プレストレストコンクリートの構造

シース  
グラウト  
PC鋼材  
コンクリート  
シース (PC鋼材を通すための円筒断面形の管)

シース  
グラウト  
PC鋼材

グラウトの充填不足状況

グラウトの充填が不十分であればシース内に空隙ができ、この空隙に塩化物イオンが浸透してPC鋼材が腐食します。

### 外ケーブル補強

主桁に外ケーブルを追加配置し、橋梁の耐荷力を向上させます。

外ケーブル

### グラウト再注入

グラウト不足が確認された構造物に、充填材の再注入を行います。



# 大規模更新・修繕事業の展望と当社の取り組み

高速道路の更新計画（概略）は以下の通り。

NEXCO3社・本四高速・首都高速・阪神高速での総事業費は **約5兆4,000億円、契約率：約41%**（2023年1月時点）

	首都高	阪神高速	NEXCO3社	本四高速	6社計
①更新費 (計画額)	約 9,300億円	約 4,200億円	約 40,300億円	約 260億円	約 54,000億円
②更新費 (実績額)	約 3,900億円	約 1,400億円	約 16,700億円	約 110億円	約 22,000億円
③契約率 (②/①)	約42%	約34%	約41%	約41%	約41%

- NEXCO3社の完成ベースでの進捗状況：約12%  
(2022年9月末)
- 定期点検等を踏まえた詳細調査の結果、新たに更新が必要と判断される事業が、約15,000億円  
(NEXCO3社：約10,000億円、首都高：約3,000億円、阪神高速：約2,000億円) 計画され、今後10年程度は事業が継続する見通し。

## 【NEXCO3社 新たな更新計画の概要】

区分	主な対策	延長※1	概算事業費
橋梁	桁の架替、充填材の再注入	約 30 km【約 50 km】	約 2,500億円
	床版取替	約 20 km【約 30 km】	約 4,500億円
土工・舗装	舗装路盤部の高耐久化	約440km【約870 km】	約 2,400億円
	切土区間のボックスカルバト化+押え盛土	2 箇所	約 200億円
	盛土材の置換	約 4 km【約 8 km】	約 400億円
合計※2		約500km【約960 km】	約 10,000億円

※1【 】は上下線別の延べ延長

※2 端数処理の関係で合計が合わない場合がある

注)上記の新たに更新が必要となった箇所と同様の構造・基準の箇所等において、今後著しい変状に進行する可能性があることから、今後の点検結果等を踏まえ、更新事業の追加を検討

出所：国土交通省 社会資本整備審議会 道路分科会 国土幹線道路部会 資料（2023年2月）



# 大規模更新・修繕事業の展望と当社の取り組み

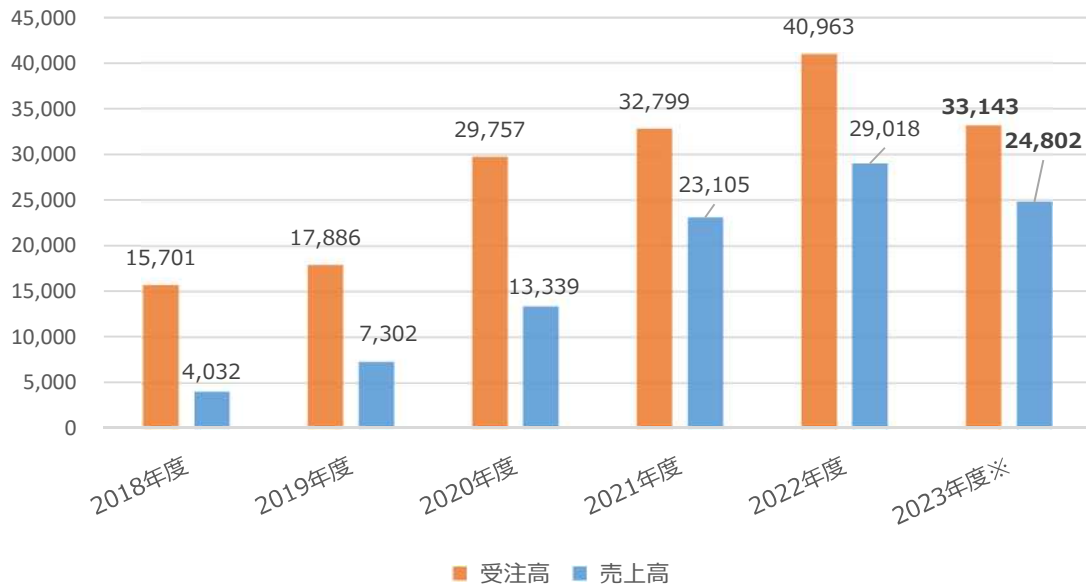
大規模更新・修繕工事は、年々増収増益で、近年は10%を超える高い利益率を確保し、主力事業として成長・発展をみせている。引き続き、生産性、収益性向上のための施策や技術開発に取り組む。

## 大規模更新・修繕工事 受注高・売上高推移

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度※
受注高	15,701	17,886	29,757	32,799	40,963	33,143
売上高	4,032	7,302	13,339	23,105	29,018	24,802

※2023年度は予算値



阪和自動車道 土丸橋 PC上部工補修工事  
【2022年度竣工】

■リパッシブ工法の採用





# 大規模更新・修繕事業の展望と当社の取り組み

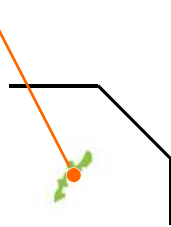
全国で大規模更新・修繕工事の現場が施工中（大規模更新工事 11件、大規模修繕工事 12件）

- 大規模更新工事
- 大規模修繕工事

【MuSSL工法】



沖縄自動車道（特定更新等）  
許田高架橋北他1橋床版取替工事  
受注額 3,350百万円  
受注形態 単独



阪神高速道路  
PC桁等大規模修繕工事(2019-3-松)  
受注額 6,730百万円  
受注形態 JV代表(60:40)



東北自動車道 平川橋床版取替工事  
受注額 3,723百万円  
受注形態 単独



【MuSSL工法、半断面施工】



東名高速道路（特定更新等）  
大井川橋他1橋床版取替工事  
受注額 24,600百万円  
受注形態 JV代表(60:40)



# リパッシブ工法 PCグラウト充填不足部の補修工法

## リパッシブ工法とは

既設PC橋のPCグラウト充てん不足部に雨水や塩分が浸入し、PC鋼材の著しい腐食が発生し問題となっています。

リパッシブ工法は、従来のグラウト再注入工法では、十分な補修効果を得ることができないこれらの腐食したPC鋼材に対して、亜硝酸リチウム水溶液注入と亜硝酸リチウム添加補修材充てんを行う新工法です。確実な不動態化と腐食抑制により、構造安全性の低下を防止し、既設PC橋の長寿命化を実現します。



ポストテンションPCT桁橋の主ケーブルで確認された著しい鋼材腐食

## リパッシブ工法の特長：確かな腐食抑制

### 【確かな腐食抑制】

亜硝酸リチウム水溶液が、腐食したPC鋼材のCl-を含む錆層に早期に浸透し再不動態化させることで、高い腐食抑制効果が得られます。

### 【モニタリング可能】

シーす内にモニタリングセンサを設置することにより、施工時および施工後の腐食抑制効果を、電気化学的にモニタリングできます。

### 【優れた耐久性】

亜硝酸リチウム添加補修材が、錆層内に浸透した亜硝酸リチウムの外部への拡散を抑制し、長期的な腐食抑制効果を発揮します。

### 【維持管理費用の縮減】

PC構造物の安全性低下を防止することで、従来の対策では必要とされた補強を行う必要がなく、維持管理費用が縮減されます。

### 【広汎な適用性】

主ケーブル、せん断鋼棒、横締めケーブル・鋼棒など、あらゆるポストテンション方式のPC鋼材に対して適用可能です。

※神戸大学森川英典教授研究室との共同開発工法で、特許第5312526号です。





# リパッシブ工法 PCグラウト充填不足部の補修工法

## NEXCO西日本「阪和自動車道 土丸橋（上り線）PC上部工補修工事」にて採用

本橋は、1990年に供用開始された3径間PC連続ラーメン箱桁橋です。定着部およびカップラー部からの地覆直下の上床版へと配置されたグラウトホースからの伝い水により、橋面に散布された凍結防止剤が躯体内部に侵入しやすい構造特性となっていました。事前調査により同橋の上り線の一部にPC鋼材の破断が認められたため、補修することに至りました。

### 【施工手順】



【事前調査】鋼材探査



亜硝酸リチウム添加補修剤充填工



【事前調査】グラウト充填調査



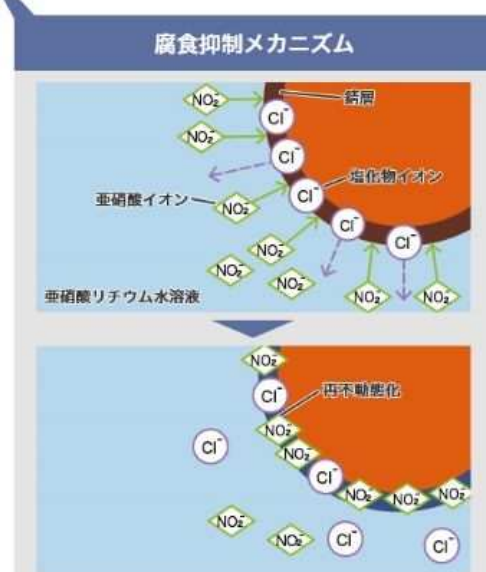
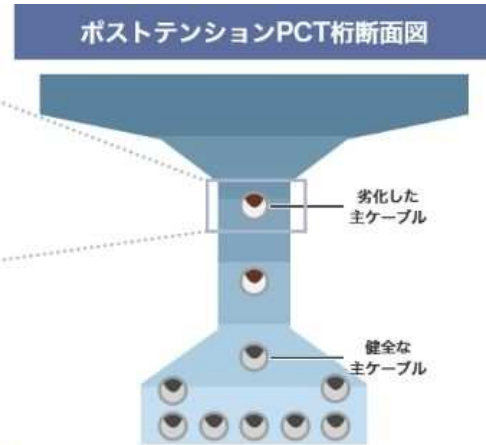
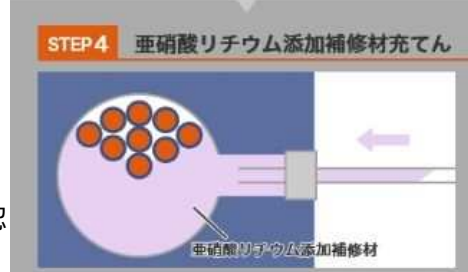
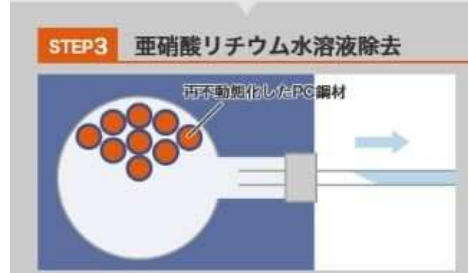
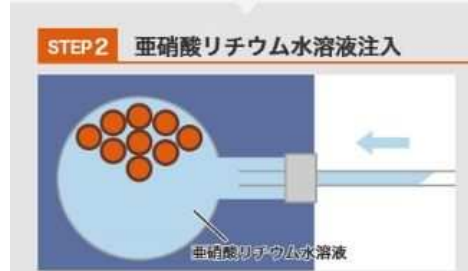
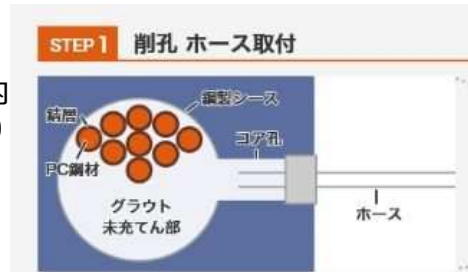
亜硝酸リチウム水溶液注入



【事前調査】塩化物調査



亜硝酸リチウム添加補修剤充填の確認



- 1 水溶液中のNO<sub>2</sub><sup>-</sup>が錆層に浸透
- 2 錆層内のCl<sup>-</sup>が水溶液中に移動
- 3 錆層内イオン量がCl<sup>-</sup><NO<sub>2</sub><sup>-</sup>へ変化
- 4 腐食した鋼材表面が再不動態化





**ピーエス三菱**  
P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.

#### 将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

#### IRに関するお問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱 管理本部 総務部 広報・IRグループ  
〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル  
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-3536-6927 メールアドレス : koho.ir@psmic.co.jp

PR動画はこちらから

